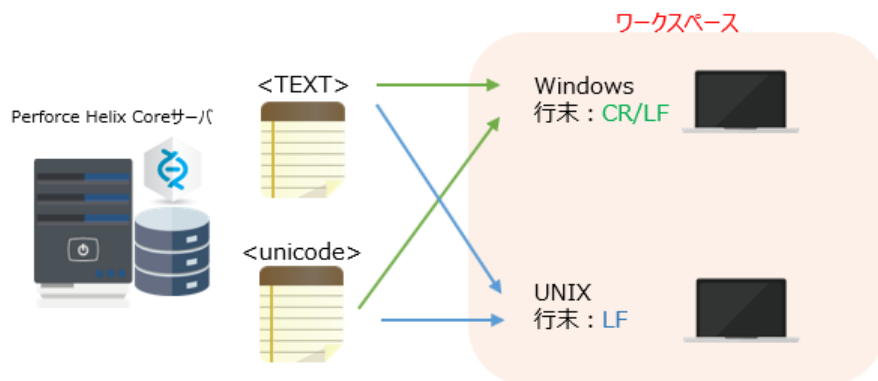


ワークスペースにおける行末文字の扱いについて

説明

ユーザからPerforceサーバへテキストファイルが提出された場合、行末文字をLFとして処理し登録します。

Perforceサーバから取得するファイルが<text>や<unicode>である場合、ファイルの行末文字は、ユーザが設定するワークスペースの行末文字設定に依存します。

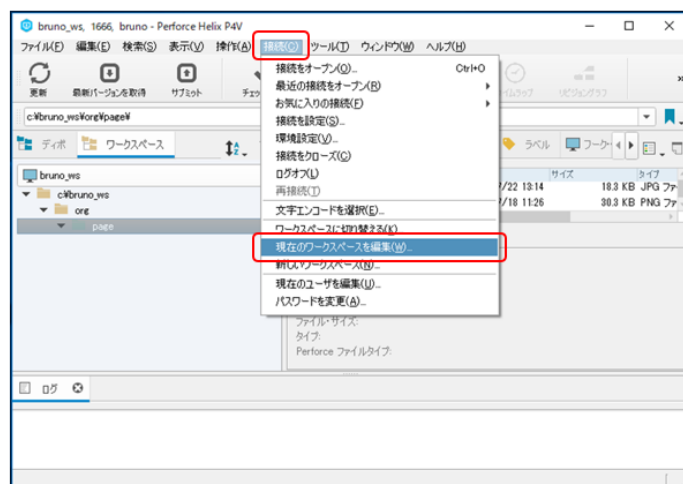


手順

ワークスペースの行末文字設定を変更する手順は以下のとおりです。

■ P4Vからワークスペースが取扱う行末文字を変更する方法

1. P4Vの[接続(C)] → [現在のワークスペースを編集(W)]を選択します。



2. [詳細(A)] タブを選択し、[テキスト・ファイルの行末文字(X)] から選択します。
※ 通常は[ローカル: 現在のオペレーティング・システムをデフォルトにする]が選択されています。

ワークスペース: bruno_ws (1666, bruno)

基本(B) **詳細(A)**

所有者(N): bruno
☐ ロックされています所有者のみがワークスペース設定を編集可能(E)

コメント(O): Created by bruno.

ホスト(S): hostname

代替ルート(O):

変更ビュー(H):

☐ このサーバIDに制限(O):

ファイル・オプション:

☐ すべて書き込みリビジョン取得時、すべてのワークスペース・ファイルを書き込み可能状態のまま
☐ 上書きリビジョン取得時、書き込み可能なワークスペース・ファイルを上書きする(L)
☐ 圧縮リビジョンのサブミット時または取得時、ファイルを圧縮することにより低速な接続を高速化
☐ 変更日付: サブミット実行者のワークスペースにあったときのファイル変更時刻に設定する(E)
☐ ディレクトリ削除ワークスペース・ディレクトリが空である場合に削除する(B)

テキスト・ファイルの行末文字(O): **ローカル現在のオペレーティング・システムをデフォルトにする**

サブミット時(O): **すべての選択** Unix: UNIX形式のLF
Mac: Macintosh形式のCR
Win: WindowsスタイルのCRLF

クライアントタイプ: **書き込み可能** 共有書き込みはUNIX形式、読み取りはローカル形式で行う

☐ 自動的にすべてのリビジョンを取得(L)

OK Cancel Apply Help